

思いやり通信



仙台市立黒松小学校
令和3年7月19日
第6号

スクールカウンセラーさんに聞いてみた。

以前「思いやり通信2号」において校内のいじめ対策連携機関としてスクールカウンセラーの山中先生をご紹介いたしました。今回はどんなお仕事をされているのか、どんなことを心掛けているのかなどについて伺ったインタビューを掲載したいと思います。

紺野 今日はよろしくお祈いします。まず、スクールカウンセラーのお仕事についてお聞かせください。

山中 主な仕事は、皆さんの困っていることや悩みなどについてお話を聞くことです。その他にも、授業や休み時間の様子を見て回ったり、お便りで心理学の知識を皆さんに紹介したりしています。

紺野 いつも校内の子供たちの様子を見ていただきまして、ありがとうございます。相談ということですが、子供も大人も先生に相談することができるのでしょうか？

山中 学校に関わっている皆さんなら、誰でも相談していただくことができますよ。

紺野 これまでにどんな相談が寄せられましたか？

山中 そうですね。人間関係の話や、勉強がうまくいかないという悩み、学校に行きづらいというような話も出ています。

紺野 いろいろな悩みが寄せられるのですね。

山中 そうですね。カウンセラーは、幅広くどんな相談にも対応しています。

紺野 ところで、教室での一斉指導や日々の子供同士の関わり合いによって成長を促している学校ですが、先生のお仕事では個別の対応がメインだと思います。先生のお立場から、学校の教育活動について感じていることをお話してください。

山中 一斉指導や個別対応には、それぞれにメリットやデメリットがあると思っています。大事なのは、いかにそれぞれのメリットを最大限に活用していくかだと思います。例えば一斉指導においては、先生の指示を聞いていろいろなことを学んだり、友達との関わり方を身に付けたりする経験ができると思います。一方で、集団の関わりに少し疲れてしまったり、学習や生活でうまくいかないことが出てきたという時には、1対1の個別対応をすることで、細かく本人の思いや解決策について考えていくことができますと思います。

紺野 個性を大切にしながら社会性を身に付けて、成長を促していくということなんですね。

山中 そうですね。一斉指導と個別対応、それぞれの良いところを活かしながら、先生方とカウンセラーで連携し、一丸となって皆さんをサポートできればと思います。

紺野 これからも私たちと一緒に、黒松小学校を支えてください。今日はインタビューに答えていただきましてありがとうございました。

山中 ありがとうございました。



お陰様で...



7月に入り、黒松小学校のプールからも子供たちの元気な声が聞こえるようになってきました。感染症対策に十分配慮しながらの体育実技となっていますが、やはり子供たちの多くは夏のプールを心待ちにしていたようです。子供たちはマスクをしていない状況下で会話をしないように気を付けていますが、友達と過ごすプールには笑顔があふれています。

先月6月18日、プール清掃にたくさんの保護者の方や地域のボランティアの方々が集まってくださいました。中には、18日のプール清掃の前に学校に足を運んでくださり、プールサイドやプールの淵の汚れを丁寧に落としてくださった方もいました。「陰ながら応援しています。」という言葉を目にすることがありますが、学校生活では、まさにこの「お陰様」の皆様のおかげで子供たちが笑顔になっています。紙面を借りて御礼申し上げます。このように学校の教育活動にたくさんのご協力をいただけることは、私たち教師の日々の活力になっています。本当に有り難いことです。

先日、この「思いやり通信」を「楽しみにしていますよ。」というお言葉をいただいたり、連絡帳で感想をいただいたりするうれしい機会がありました。今後も皆様に校内の様子をお伝えし、思いやりの連鎖を広げていきたいと思っております。

